

保険者基本情報及び実施率

【基本情報】	令和3年12月時点								
保険者名	東京都後期高齢者医療広域連合								
保険者種別	後期高齢者医療広域連合								
被保険者・被扶養者の 人数／平均年齢	①-1 被保険者数 (全体)	1,599,706	人	①-2 被保険者数 (40～74歳)		人	①-3 被保険者 平均年齢 (全体)		歳
	②-1 被扶養者数 (全体)		人	②-2 被扶養者数 (40～74歳)		人	②-3 被扶養者 平均年齢 (全体)		歳
事業所数／自治体数	62自治体								
特徴 (業種・業態・職種)	【業種・業態】					【職種】			

【実施率】	令和3年3月時点					
特定健康診査	被保険者	49.4	%	被扶養者		%
特定保健指導	被保険者		%	被扶養者		%

東京都後期高齢者医療広域連合	保健事業カルテ
事業名	ジェネリック医薬品使用促進事業

2020年度

背景	被保険者数が年々増加することに伴い、医療費の増大が見込まれる。
対応する健康課題	生活習慣病や慢性疾患等で先発医薬品を服用している被保険者の医療費が増大している中、自己負担額を軽減し、被保険者の健康維持・増進、医療費の適正化を目指す必要がある。
事業目標	・ジェネリック医薬品使用率 80% (2021/6/18 閣議決定「経営財政運営と改革の基本方針2021」にて、後発医薬品数量シェアを2023年度末までに全ての都道府県で80%以上とする目標が示された)

	対象者	方法	体制
2020年度の 実施内容	1か月あたりの自己負担軽減が一定額以上見込める被保険者	・差額通知の発送	・委託事業者 ・事業者と定期的な打合せ等を開催し、抽出条件(軽減見込額・対象医薬品等)のすり合わせを実施している。

プロポーザル方式(最長3年、金額評価は10%程度)で、委託事業者からの課題解決の提案を促している。

指標No.	評価指標	目標値						実績値						
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
アウトカム指標 (成果を測る指標)	1 切替率	-	-	-	-	-	-	40.7%	38.6%		42.8%			
	2 使用率	65%	70%	80%	76%	78%	80%	69%	73%		75%			
	3 1か月あたりの軽減効果額	-	-	-	-	-	-	5.5億円	4.9億円		7.4億円			

対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
1,2,3	b.行動変容支援	各指標を算出し、切替による効果を見える化することで、切替によるイメージ向上を促す。	通知を受け取った対象者が、受け取り後の対応について問合せをいただくことが多かったため。	Good!
1,2,3	a.意識付け	差額通知の文言を適宜見直し、医師・薬剤師に相談しやすい(持参しやすい)内容となるよう工夫している。また、JGAR-フレットや希望シールを同封(隔年)している。	通知を受け取った対象者が、受け取り後の対応について問合せをいただくことが多かったため。	
1,2,3	b.行動変容支援	後期高齢に移行した75・76歳の被保険者に対しては、自己負担の軽減見込額をより安価に設定し、通知対象数を拡充している。	後期高齢者に移行した早期の段階で医療費の抑制につながったため。	

アウトカムを上げるための工夫(意識付け)としても良い。

KNOW HOW

負担軽減の見込額は直近の状況を踏まえて、75・76歳(100円)、77歳以上(150円以上)で設定している。

指標No.	評価指標	目標値						実績値						
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
アウトプット指標 (実施率を測る指標)	1 差額通知発送数	60万件	60万件	60万件	65万件	65万件	65万件	59.5万件	59.8万件		59.8万件 (597,519件)			
	2													
	3													

対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
1	b.勸奨	発送時期を、後発医薬品の薬価収載の時期(6月・12月)に合わせて、2回に分けて発送している。	効果的な先発医薬品からの切替タイミングで差額通知を目にして欲しかったため。	Good!
1	a.周知	2021年から、認知症薬や睡眠薬のみを服用している被保険者を対象に、薬剤名を記載しない通知(啓発リーフレット)を送付する。	薬価単価が高く、後発医薬品に切り替えることで医療費の軽減が大きく見込めるため。	

KNOW HOW

睡眠薬のみ、認知症のみ、もしくはその両方の先発医薬品を服用している被保険者にはリーフレットで丁寧に啓発。家族の安心感にもつながるようだ。

品薄によるクレームを考慮して、ジェネリック医薬品の流通量や実績から発送の時期や対象地域を検討している。

差額通知は毎年発送。希望シールは被保険者証更新年(2年に1度)は保険者証の発行に同封。被保険者証の更新でない年は差額通知に同封して送付。

ジェネリック医薬品の差額通知の対象人数は多く、かつ通知による行動変容がある程度認められることから、今後、そのほかの保健事業や介護予防につなげる設計も有用です。
第3期データヘルス計画 P.17より、患者数が多く、かつ医療費が高い男性の循環器疾患、女性の筋骨格系疾患などが対象として考えられます。

[健康課題の抽出と事業目標の明確化]
・健康課題として生活習慣病等の医療費増大による患者負担や健康維持が挙げられており、次期データヘルス計画では事業目標にジェネリック医薬品使用率に加えて、それらの解決に資することも考えられます(第3期データヘルス計画 P.53とも整合がとれる)。

[評価指標(目標値)の設定と実績]
・アウトカム指標として、使用率に加えて、切替率や1か月当たり軽減効果額が設定されていることはGoodポイントです。軽減効果額も経年で推移が把握されてきたので、次期計画では目標値を設定すると良いです。
・軽減効果額の増加の背景も確認されていました。
・広域連合は規模が大きいため、次期計画では評価指標をカテゴリ化することで、実績に基づき方法・体制を検討しやすくなります。
第3期データヘルス計画 P.10で区市町村別の医療費格差が示されており、ジェネリック医薬品に関する指標も区市町村で捉えることも一案です。

ジェネリック医薬品の疾病種別による特性や流通における課題を理解し、様々な工夫をされています。今回、「保健事業カルテ」に記載し、ヒアリングを受けていただいたことで、広域連合で当たり前に実施しているノウハウが暗黙知として複数抽出されました。今後も継続して保健事業に関する知見を明文化し、蓄積することは、職員の定期的な異動(出向)がある組織にプラスになると考えられます。

[アウトカムを上げる知見]
・対象者の反応から検討・実施された切替効果の見える化や差額通知の文言の改変は有用な知見と考えられます。
・啓発リーフレットの配布は、家族の理解も得て、切替につながった工夫であることがうかがえます。

[アウトプットを上げる知見]
・ジェネリック医薬品の薬価収載時期や流通の状況を考慮した通知の実施方法および体制づくりは、対象者の円滑な切替のためのノウハウと考えられます。
・希望シールの保険者証発行への同封等は業務の効率化につながっています。